

東京家政大学ヒューマンライフ支援機構

Organization for Research and Community Cooperation

地域と大学、学生をつなぐ
ワンストップのハブセンターを目指します。

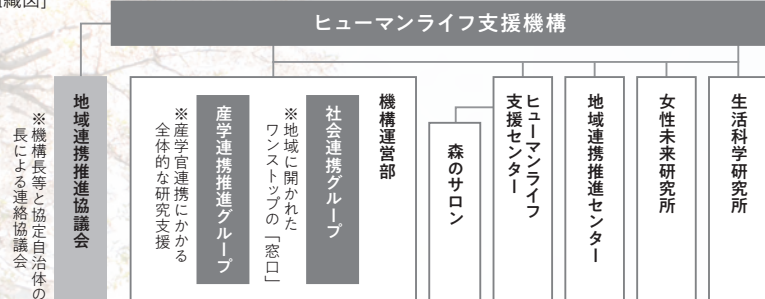


生活科学研究所 女性未来研究所 地域連携推進センター
ヒューマンライフ支援センター 森のサロン

地域と学生、大学の連携・協働と「ひとの生 (Life)」 ヒューマンライフ支援機構にご期待ください。

東京家政大学は1881(明治14)年に創設以来、143年目を迎えました。
この間、本学の教育・研究の成果を「ひとの生 (Life) を支える学」として
広く社会に発信し、地域の課題解決に向けた取組を
行政、企業、NPO等と協働してすすめてまいりました。
こうした本学の取組を基盤に地域と学生、
大学を結ぶワンストップセンターとして、
「ヒューマンライフ支援機構」を2020年4月に開設いたしました。
依然としてコロナ禍が治ってはいませんが、
皆さまのご理解とご支援のもと、
社会連携・産学連携の取組を一層活発化してまいります。

[組織図]



機構長

飯塚 堯介

MESHITSUKA GYOSUKE

元東京家政大学家政学部服飾美術学科教授、
東京大学名誉教授、日本学術会議20期・21期
会員、22期・23期連携会員。
専門/生物材料化学、バイオマス化学

社会連携グループ

大学と連携したいが、どこに連絡をすればよいかわからないとよく聞きます。社会連携グループは行政、企業、NPOなど本学との連携を希望される方々が気軽に相談できる「窓口」となります。



社会連携グループ長 内野 美恵

本学の専門である「ひとの生(Life)を支える学び」は、社会の多種多様な分野と連携することが可能です。本学学生の勤勉で若くしなやかな発想力は、これまでの産学官連携事業において、多くの成果を上げています。

UCHINO Mie 本学ヒューマンライフ支援センター教授・専門員、東京都食育推進協議会委員、日本パラリンピック委員会医科学情報サポートスタッフ、博士(学術)、管理栄養士
→ E-mail: syakairenkei@tokyo-kasei.ac.jp

産学連携推進グループ

本学は食べること、着ること、健康であることなど、人々の生活にかかわる多様な研究を行っています。産学連携推進グループは大学のシーズと行政や企業等のニーズをマッチングし、社会実装(社会の役に立つ)を目指し、産学官の連携による共同研究・受託研究等を活発化します。



産学連携推進グループ長 佐藤 吉朗

本学の「強み」を最大限発揮しつつ、行政、企業、NPO等をパートナーに連携・協働をすすめてまいります。これらの取組の成果を本学の「研究力」の強化につなげ、生活研究の家政大ブランドを確立できるよう努めます。

SATO Yoshio 本学ヒューマンライフ支援機構副機構長、本学栄養学部管理栄養学科教授、生活科学研究所所長。2010年に食品企業から本学に。食品の安全から「おいしさ」まで「食」にかかわる幅広い事象が研究テーマ。

→ E-mail: satouy@tokyo-kasei.ac.jp



産学連携推進グループ産学連携コーディネーター 藤本 浩

産学連携推進グループでは、企業との共同研究、受託研究等を通じて家政大―産業界の連携を推進しています。私は食品企業における研究者として、また、国立研究機関での産学連携・知財管理の経験が豊富です。お気軽にご相談ください。

FUJIMOTO Hiroshi 本学生活科学研究所教授・専任研究員、博士(理学)、食品技術士センター会員、一級知的財産管理技能士(特許専門業務)

→ E-mail: sangaku-D@tokyo-kasei.ac.jp

産学連携の仕組み

本学は食べること、着ること、健康であることなど、人々の生活にかかわる多様な研究を行っています。産学連携推進グループは大学のシーズと行政や企業等のニーズをマッチングし、社会実装を目指し、産学官の連携による共同・受託研究を活発化します。

[学術指導]

- 学術指導とは、企業等からの委託を受け、本学教員が教育・研究上の専門的知識に基づき指導・助言、情報提供等を行い、その課題解決を支援する仕組みです。研究を具体化する前段階の包括的な支援としても活用できます。
- 学術指導を受けたい本学教員（研究者）がいる場合には事前に指導内容等についてご相談ください。どの教員の指導を受けたいかわからない場合は、本機構産学連携推進グループにご相談ください。学術指導にあつては、1時間につき10,000円を基準に学術指導料のご負担をお願いいたします。

[共同研究・受託研究]

- 共同研究は、民間機関等から研究経費又は研究員を受け入れて、本学の教員が民間機関等の研究員（共同研究員）と共通の課題について共同して研究を行います。受託研究は、民間機関等から委託を受けて、本学の教員が委託機関等からの委託研究費によって研究を行います。
- 共同研究・受託研究の申し込みは、担当する教員を通じて行っていただきますので、まずは直接希望する担当教員、または本機構産学連携推進グループにご相談ください。
- 共同研究・受託研究の受入れが決定しましたら、本学と民間機関等で契約（共同研究契約、受託研究契約）を締結し、研究がスタートします。

[共同研究講座・共同研究部門]

- 共同研究講座・共同研究部門とは、企業等から出資を受け、本学からは研究者と研究施設・設備を提供することで、共通の課題について長期的・継続的に共同研究を行う組織を設置するものです。
- 共同研究講座とは学部・研究科に設置する組織で、共同研究部門とは研究所等に設置する組織です。
- 設置期間は2年から5年を標準としています。共同研究と同様、企業等から共同研究員を受け入れることも可能です。
- 本学の研究者（複数可）との安定的な共同研究拠点の制度としてご活用ください。

共同研究講座 キューピー株式会社との連携

キューピー・東京家政大学 タマゴのおいしさ研究所

[概要] 設置期間：令和3年4月1日～令和7年3月31日
研究体制：特命教授 峯木真知子 / 講師 大雅世 / 共同研究員 設樂弘之(キューピー(株))

本研究所では、タマゴの魅力、おいしさについての普及に取り組んできました。さらにタマゴの正しい情報を毎月メールマガジンと動画配信し、卵の保存、ゆで卵、目玉焼きや温泉卵などの料理もエビデンスを加えて紹介しています。また、「卵の成分の分析とおいしさの解明」をテーマに、冷凍卵の食感、油滴径の異なるケーキの違い、正しい卵の保存方法なども研究し、「おいしいタマゴが創る健康生活」の研究成果を広く発信して参ります。※写真上：もっちり食感の冷凍卵。家庭での作り方や卵黄の状態、料理への応用について動画で紹介。写真下：研究成果をまとめたタマゴの本を発刊予定。



日本における鶏卵の一人当たりの消費量は世界第2位で、身近で高栄養な食品です。近年、鶏卵の新たな機能として、筋力アップやダイエット、視力の維持に重要な役割を担っていたり、脳活性に与える効果などがわかってきています。本研究所は、タマゴのおいしさを解明し、その成果をわかりやすく消費者に発信するとともに、鶏卵を対象とした研究者の育成を目指します。



共同研究講座特命教授
前副学長(研究・産学連携担当)
前人間生活学総合研究科長
峯木 真知子
MINEKI Machiko



家政大の研究シーズ

www.tokyo-kasei.ac.jp/society/orcc/seeds.html

研究シーズ(Seeds)とは、大学と企業、行政、地域等との産学連携、社会連携の「実」となり「芽」となる「種(たね)」のことです。本学では子どもから高齢者まで、人々の生活にかかわる多様でユニークな研究が行われています。それぞれの教員がどのような研究に取り組んでいるのか、その研究活動の一端を、「子どもと学び」、「食と栄養」、「健康とからだ」、「環境と暮らし」、「こころと表現」をガイドに紹介しています。興味を持たれたシーズがありましたら、産学連携推進グループ(orcc@tokyo-kasei.ac.jp)までお問合せください。



発明研究の紹介

www.tokyo-kasei.ac.jp/society/orcc/academia_cooperation/index.html

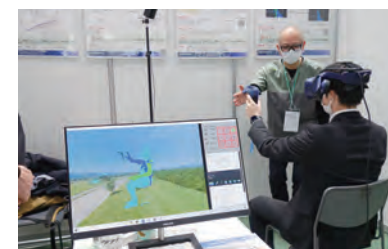
本学教員による発明と研究概要について紹介しています。発明した技術等を使って新製品を開発してみたい、本学と更なる研究開発をすすめたいとお考えの企業様がありましたら、産学連携推進グループ(orcc@tokyo-kasei.ac.jp)宛ご連絡ください。

研究課題	動画	研究者名
天然ナノ材料を用いた布への消臭性等の機能付与		家政学部教授 濱田仁美
スタッフ不足を解消する質の高いリハビリテーションシステムの開発		健康科学部准教授 磯直樹
減塩パンの製造方法の開発について		栄養学部教授 鍋谷浩志
ウイルス感染症の高感度・迅速検出		家政学部教授 池田壽文

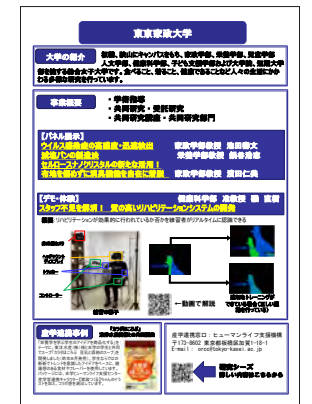
産学連携支援ネットワーク会議に参加

産学連携には学外の多様なチャネルの協力を得ることも重要となります。本学も公益財団法人埼玉県産業振興公社が展開する産学連携支援の仕組みを活用させていただき、積極的な取組をすすめています。

2024年1月に開催された「彩の国ビジネスアリーナ2024 産学連携フェア」に本学として初めてブースを出展し、「質の高いリハビリテーション支援システム」(健康科学部 磯准教授)のデモ・体験と「ウイルス感染症の高感度・迅速検出」(家政学部 池田教授)、「減塩パンの製造法」(栄養学部 鍋谷教授)、「セルロース



ナノクリスタルを用いた布への消臭機能の付与」(家政学部 濱田教授)、産学連携事例(ヒューマンライフ支援センター)のパネル展示を行いました。



各研究所・センターの紹介



生活科学研究所

地域に開かれた生活科学の教育・研究の場

昭和23年の設立以来、幅広い分野にわたる学際的な生活科学研究を推進し、行政や企業との共同研究等産学連携をすすめています。全国の高校生による研究コンクールや各種講演会、食育活動等広く本学の教育・研究の成果を発信しています。

TEL: 03-3961-2502
E-mail: rids@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/research/rids/index.html



女性未来研究所

女性100年、過去から未来へ

建学の精神である「自主自律」の道を歩み、生活信条である「愛情・勤勉・聡明」のもと、未来を創造する女性を支援するため調査研究と活動を行っています。SDGsの目標を共有し、コミュニティの課題解決に参画する「女性」を探究しています。

TEL: 03-3961-5305
E-mail: josei-mirai@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/research/woman/index.html



地域連携推進センター【狭山・板橋】

地域課題の解決に向けた地域と大学を結ぶ連携拠点

【狭山】本学の教育・研究の成果をもって、地域課題解決に向け、多様な大学、地域、地元企業との連携・協働により、地域活性化の推進活動に取り組んでいます。
【板橋】在学生向けキャリア支援・資格取得対策講座の他、一般社会人向け公開講座を実施しています。

→ 【狭山】TEL: 04-2955-6959 E-mail: chiiki@tokyo-kasei.ac.jp
【板橋】TEL: 03-3961-5742 E-mail: syogai@tokyo-kasei.ac.jp
共通URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/society/commulic/top.html



ヒューマンライフ支援センター

社会のニーズに学生の学びで応える

「社会のニーズに学生の学びで応える」をモットーに産学官連携事業を展開しています。本学の「知」を活かし、レシピ開発、商品開発、デザイン、食育活動等、学生にとっても授業とは異なる実学の場を創造しています。Human Life Plazaの頭文字をとって愛称はHulip（ヒューリップ）です。

→ TEL: 03-3961-5274
E-mail: hulip@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/society/hulip/index.html



森のサロン

親子でほっと一息つける場所 板橋区地域子育て支援拠点事業

0～3歳のお子さんを持つ家庭対象の子育てひろばです。「であい・ふれあい・学びあい・育てあい・思索・対話の場」をテーマに、あそび場の開放、学内外の専門家による講座やイベントの開催、森のアトリエ、子育て相談、リフレッシュ保育等を実施しています。また学生ボランティアや実習の受け入れ、卒業研究の協力等、学びの支援も行っています。

→ TEL: 03-3961-6354
E-mail: morinosalon@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/society/hulip/salon/index.html



主な社会連携・産学連携の歩み

- 2006 / 平成18年度
 - ・東京都北区「高齢者ふれあい食事会」協力（～2019）
- 2007 / 平成19年度
 - ・「白藤プロジェクト」（企業、農家との連携による白藤米の復活）が発足
 - ・学生が企画し運営した食育カフェ「茶の間-CHANOMA-」が第3回東京商店街グランプリにて「地域活性化部門 準グランプリ」を受賞
- 2010 / 平成22年度
 - ・板橋区地域子育て支援拠点事業「森のサロン」スタート
 - ・東京都板橋区・大学公開講座（連続6回、隔年開講、～継続中）
- 2011 / 平成23年度
 - ・東京都北区と包括協定を締結
 - ・狭山市教育委員会・入間市教育委員会等との連携「子ども大学さやま・いるま」スタート（～継続中）
- 2012 / 平成24年度
 - ・「白藤プロジェクト」が農林水産大臣賞を受賞
 - ・「北区環境大学事業」受託研究始まる（～継続中）
 - ・東京家政大学オリジナルピンクリボン※啓発カレンダー制作（～継続中）
※アメリカから始まった乳がんの早期発見・早期検診・早期治療を促す啓発運動
- 2014 / 平成26年度
 - ・（株）ロフト「カロリーBENTO」レシピ考案（～2016）
 - ・女性未来研究所初代所長に樋口恵子氏就任
- 2015 / 平成27年度
 - ・東京都板橋区共催「いたばし(あい)カレッジ」(～2017)
 - ・北区共催「さんかく大学」(～2017)
 - ・群馬県共催「とらいあんぐるん大学連携講座」(～2017)
- 2016 / 平成28年度
 - ・埼玉県狭山市、千葉県長南町、東京都板橋区と包括協定を締結
 - ・入間市と東京家政大学との子育て支援に関わる調査研究
 - ・「東京家政大学ワークライフバランスin農業女子プロジェクト」が発足
- 2018 / 平成30年度
 - ・埼玉県入間市と包括協定を締結
 - ・特別区長会調査研究機構・板橋区提案による自尊感情に着目した育児期女性の支援に関する基礎研究
 - ・板橋区環境協働プロジェクト「親子環境学習講座」
 - ・狭山市と東京家政大学とのスポーツと健康・食生活に関する調査研究
 - ・「東京家政大学ワークライフバランスin農業女子プロジェクト」農林水産省が支援する農業女子プロジェクトの連携大学（はぐみ校）となる（～継続中）
- 2019 / 平成31年度
 - ・「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）包括協定」締結
 - ・東京都板橋区・北区共催「子育てママの未来計画」(～2021)
- 2020 / 令和2年度
 - ・学生有志団体食リンピック実行委員会の取り組みが農林水産省主催「第4回食育活動表彰」にて消費・安全局長賞を受賞
 - ・森のサロンの「学生がつくるサロンプロジェクト」が厚生労働省主催「第9回健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）」にて子ども家庭局長賞 団体部門 優良賞を受賞
- 2021 / 令和3年度
 - ・狭山市・入間市と東京家政大学との地域住民の運動習慣と身体機能に関する実態調査研究
 - ・地域小学校との教育連携事業が文部科学省後援公益財団法人 修養団（SYD）主催「第16回 SYDボランティア奨励賞」にて優秀賞を受賞
- 2022 / 令和4年度
 - ・「生活をテーマとする研究・作品コンクール」を「生活創造コンクール」へ名称変更
 - ・東京都板橋区共催「子育てママの未来計画」
 - ・ソーラー ホテルズアンド リゾーツ株式会社「カラダに美味しい朝食を食べよう！プロジェクト」(～継続中)
- 2023 / 令和5年度
 - ・双日食料株式会社、マリンフーズ株式会社と包括協定を締結
 - ・一般社団法人 先端加速器科学技術推進協議会（AAA）協賛、大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構（KEK）協力で「生活創造コンクール」を開催
 - ・東武百貨店池袋本店レストラン街スパイスとのメニュー開発（～継続中）
 - ・東洋水産株式会社との共同開発「カラダほころぶ 豆乳と酒粕のスープ」発売
 - ・スーパーマーケットベルクにて学生アイデアレシピの味付け肉が発売

学生が参加したプロジェクト



ワークライフバランス in 農業女子プロジェクト 農林水産省が推進するパートナー校として、女性ならではの新しい発想で事業を企画します



東洋水産株式会社とのフリーズドライスープ商品開発プロジェクト 健康感のある食材やフレーバーを使用したスープが全国発売されました



東洋水産株式会社とのフリーズドライスープ商品紹介POPデザイン 学生視点で商品の魅力をPRし、一部の販売店舗にて掲示されました



東武百貨店池袋本店 レストラン街スパイスとのメニュー開発 各店と開発した新メニューが「チャレンジ・ザ・グルメ」フェアにて提供されました



昭和产业グループプレゼン開発教育プログラム 企業による勉強会や意見交換会を経てレシピを考案。採用レシピは卵のパッケージに掲載されます



食リンピック（食育イベント） 家政大学発の「食育」の浸透を目的としたイベント。五感を使った「食」の競技を学生が企画・運営しています



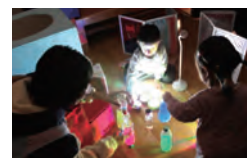
「埼玉県事業 リアル体験教室プレミアジュニアサイエンススクール2023」 学生が子どもたちに寄り添いながら、実験の補助をしました



株式会社ベルクとの味付け肉のレシピ開発プロジェクト レシピアイデア4品が商品化され、スーパーマーケットベルクにて販売されました

Hulip 産学官連携キャラクターデザイン「家政つくる」 栄養系の産学官連携事業で、商品パッケージやポスター等にアイキャッチとして使用していきます。モデルは栄養士を目指している家政大生

TOKYO KASEI UNIVERSITY



学生がつくるサロンプロジェクト 森のサロンを舞台に、学生がワークショップや環境設定を企画・実施し、冊子にまとめています



狭山市共催「魅力的な体力づくり」 学生が地域の方々の講座のサポートを行いました



北区みんなで楽しむ食育フェア 出展 ブース「食育おもちゃとあそぼう」を出展し、食育おもちゃを使った遊びやクイズを通して来場者と交流します

PICK UP

生活科学研究所

身近な生活の不思議をカタチに

生活創造コンクール

全国の高校生を対象に、学校の授業や課外活動で取り組んでいる「家庭」「福祉」「環境」「文化」など生活に関する独創的な科学的探究の成果を広く募集しています。第21回目の今年は、さらに新たな取組みとして、一般社団法人 先端加速器科学技術推進協議会（AAA）協賛、大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構（KEK）協力のもと、基礎科学に基づく優れた研究に対して



入賞作品をまとめて掲載した作品集は、県内外の高校にも配布されます。

「AAA賞」を設けました。また2021年度より優秀な作品の要旨を掲載した冊子「高校生の萌芽的研究」を発行し、研究を形として残すことで、さらなる継続や発展に繋がるような取り組みをしています。



学園祭の際に行われる表彰式には全国から入賞校が集います

女性未来研究所

女性の活躍推進に向けた共催事業

子育てママの未来計画

子育て中の女性たちが自分自身の生活や希望を見つめ直し、今後の人生をイメージできるよう構成された連続講座を実施しています。当研究所の所長と本学の専任教員が講師を務め、こころの元氣を取り戻す方法を学ぶ『レジリエンス編』、毎日の生活を客観的に見直す『家政学入門編』、講座受講者が自分らしい未来をイメージする『ライフデザイン編』の3部構成になります。この講座は、



主にグループワークを行う対面講座とホワイトボードアプリを使用したオンライン講座があります。また、自治体と共同で行っており、本学と包括協定を結ぶ東京都板橋区との、2者共催事業として年1回講座を開催しています。

視野が広がった、考え方が変わったなど、毎回大変好評をいただいているセミナーです。



ワークシートを使いながら、普段の生活を振り返り、さまざまな視点で「自分」について考えます

地域連携推進センター

未来を担う子どもたちの成長を育む「地域の教育支援」

子ども大学さやま・いるま

「子ども大学さやま・いるま」は、狭山市・入間市の教育委員会と本学が実行委員会を組織し開催しています。子ども大学は、平成14年にドイツのチュービンゲン大学で始まり、日本では平成21年に「子ども大学かわごえ」が誕生。平成22年から、埼玉県の全面的な支援を受け、地域の大学や市町村等が連携して子どもの知的好奇心を刺激する学びの機会を提供し、子どもの学ぶ力や生きる力を育む仕組みとして埼玉県内での実施が拡がり、現在、50を超える「子ども大学」が開講しています。本学では、平成23年度に始まり今年13期目を迎え、毎年、本学教員・地域の専門家より「はてな学・ふるさと学・生き方学」の3つのキーワードにより、大学の特色を活かした教育プログラムを開発・実施しています。例年、定員を大きく超える応募を頂き、保護者の方々にも好評を得ています。



員を大きく超える応募を頂き、保護者の方々にも好評を得ています。



子ども大学学長代行(本学副学長)と副学長(狭山市・入間市教育委員会教育長)を囲んでの入学式集合写真(狭山キャンパス AV教室にて)

ヒューマンライフ支援センター

東洋水産株式会社と共同開発

カラダほころぶ 豆乳と酒粕のスープ

マルちゃんこと東洋水産株式会社と東京家政大学の産学連携事業により「カラダほころぶ 豆乳と酒粕のスープ」が完成し、令和5年8月21日(月)より全国の量販店、小売店などで新発売されました。商品開発には栄養学を学ぶ学生11名が参加し、学生ならではの斬新でトレンドを意識したアイデアに、健康感のある食材やフレーバーを使用したこだわりのスープが出来上がりました。豆乳と酒粕を加えたスープに、ソテーオニオンの甘みと唐辛子の辛味が利いており、食物繊維を含むごぼう、たんぱく質を含む大豆ミート、風味豊かなゆず等の特長的な具材も加わって、健康感があり飲みやすい一杯に仕上がっています。また、パッケージには造形表現学科の学生がデザインした「家政つくる」(ヒューマンライフ支援センター産学官連携キャラクター)のイラストを加え、産学



連携を演出しています。併行して、販売店舗にて商品紹介のために提示されるPOPを造形表現学科の学生3名が制作しました。学生視点の商品の魅力伝えるPOPは一部の販売店舗にて掲示されています。



試作検討会の様子



東京家政大学ヒューマンライフ支援機構

Organization for Research and Community Cooperation

173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1

TEL: 03-3961-5537

E-mail: orcc@tokyo-kasei.ac.jp

URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/society/orcc/index.html